

2025 年度（第 27 回）鹿児島県支部総会を終えて

鹿児島県支部長 川野 好子（平成 02・生物）

令和 7 年 10 月 4 日（土）、奄美大島で鹿児島県支部総会を開催いたしました。初の海を渡っての開催で、平成 8・化学卒の小田桐傑さんが勤務する奄美大島開運酒造の工場をご本人案内で見学させていただきました。奄美大島に会員が 4 名いることを知り、奄美大島で支部総会を開催しようと企画するも新型コロナの出現で叶うことはなく、7 年の歳月を経て、ようやく実現させることができました。

午後 3 時 30 分現地集合、伊藤鶴風会理事長にもご参加いただき 7 名で見学しました。黒糖・米麴の仕込みからクラシック音楽で振動を加えての熟成まで、黒糖焼酎ができる過程の興味深い話を楽しく傾聴しました。



そのあと懇親会会場に移り、支部総会、懇親会となりました。会員数 18 に対して参加 4、委任状 10 で支部総会は成立しました。会に先立ち、伊藤理事長から挨拶を賜りました。会議室を借りない代わりに、参加者にあらかじめ支部総会資料を送付し、前年の活動や決算報告、予算、2025 年～2027 年の役員承認について書面評決書を記入して持参するようにしました。役員承認では本年度から新しく奄美在住の平成 5・生分卒の長尾三和子さんに幹事として加わっていただきたいと皆さんに話しました。その後、卒業年の若い順に自己紹介をし、懇親会に移りました。乾杯の音頭は群馬からご夫婦で参加してくださった、深澤群馬県支部長に賜りました。地元産のクロマグロの刺身やクルマエビの天ぷら、油そばや鶏飯などの奄美の料理が並びました。

奄美在住で、予定があり参加できないと言った昭和 56・化学卒の上村さんが遅れて参加してくだり、にぎやかになりました。奄美の皆さんの暮らしぶりや周りで起こることに興味津々で耳を傾けました。家族や友人と 1 泊あるいは 2 泊で参加した島外組は念願の美術館を訪れたり、自然体験をしたりと奄美を満喫しました。鹿児島県支部は会員 18 名と少数ですが、県外出身者も数名いらっしゃり、奄美在住者も 4 名の内 2 名は移住です。自然豊かで独特の文化が発達している奄美での暮らしは、長く住まわれるくらい魅力的なのだろうと思いました。懇親会参加 11 名は、今回の訪問のこと、大学のこ



と、それぞれの今の暮らしなど、話が弾みました。

奄美開催を考えたときから月日が流れ、生活の変化で、支部総会に参加できたり、できなかつたりすることをつくづく感じました。年に一度支部総会の案内をすることで近況をうかがい、それを皆さんと共有できます。若い方の参加があれば、新しい風を感じながら幅広い年代で情報交換ができます。時には鹿児島島のような場所に出かけていたり、時には他県の皆さんに声をかけたりと、どんな交流ができるか模索しながら支部活動を続けていこうと思いました。

[皆で記念撮影]

